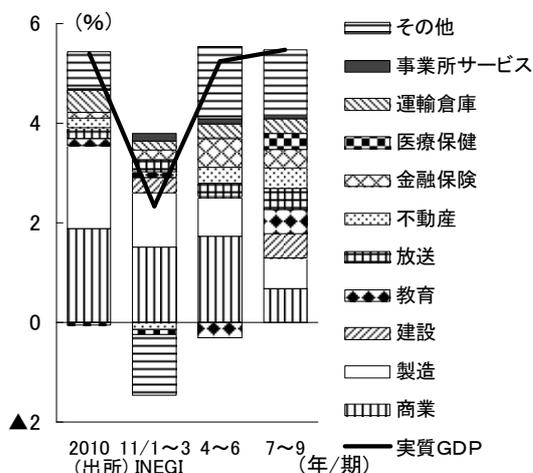


外需で拡大続くメキシコ経済

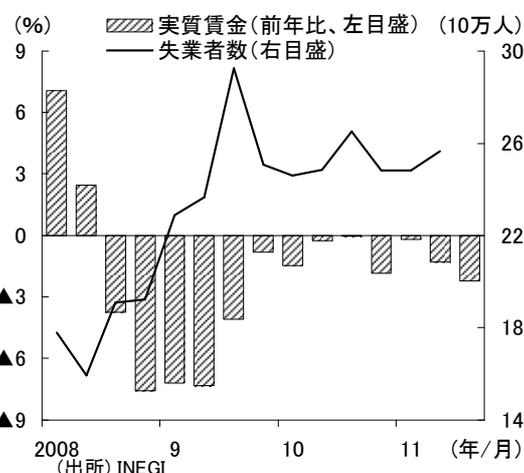
～ 米国自動車販売増のもと 生産拠点化が一段と進行 ～

- (1) メキシコ経済は底堅い拡大持続。実質経済成長率は昨年の5.4%から本年1～3月期前期比年率2.3%に鈍化した後、4～6月期5.2%に続いて7～9月期には5.5%と再び6%弱の力強い成長ペースを継続（図表1）。産業別寄与度をみると、本年4～6月期まで商業と製造業の2本柱から7～9月期には医療保健業や不動産業など内需型サービス業を含め様々な業種が成長を牽引。一見すると、成長力が強化。
- (2) しかし雇用環境をみると、まず失業者数が250万人台で高止まり（図表2）。リーマン・ショック直後に比べれば失業率は6%台から低下したものの、依然5%台でショック以前の3%にはほど遠く、実質賃金も引き続きマイナス傾向。
- (3) 所得雇用環境の低迷を映じて消費が伸び悩み。一方、投資動向をみても対内直接投資が本年7～9月期でも255億ドルとショック以前の半分以下に落ち込むなか一進一退。内需の低迷が続くものの、鉱工業生産は引き続き着実な増勢持続（図表3）。牽引役は製造業。油田開発が遅れ産油量の頭打ち傾向が広がるなか、鉱業の牽引力は限定的。
- (4) 製造業の生産増加は輸出、とりわけ米国向け輸出が原動力。典型例が自動車。米国の自動車販売台数回復に連動して同国での自動車生産ならびに輸出台数が回復（図表4）。中国等での賃金上昇や輸送コスト増を受けた同国での生産増強の動きも寄与。米国の自動車販売台数は本年11月季調済年率で1,393万台へ一段と増加。短期的には米国の財政赤字削減によるマイナス影響は不可避ながら、当面、同国経済は製造業を中心に輸出主導で実質5%成長持続の見通し。

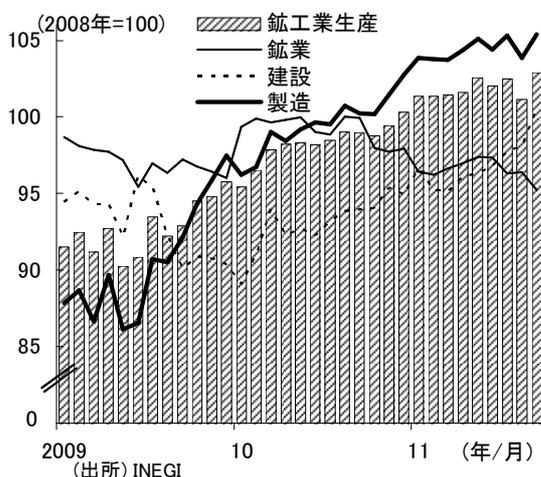
（図表1）メキシコの実質経済成長率（前期比年率）



（図表2）実質賃金と失業者数



（図表3）鉱工業生産（季調済）



（図表4）自動車生産・販売台数と米国販売台数

